

日本文化は、 技術や暮らしの 知恵にある

日本文化体験交流塾

米原 亮三

南仏の小都市オランジュでは、約2,000年前に建てられたローマ劇場が今も残り、夏には毎年、芸術祭が開催されている。また、ヨーロッパ各地を旅すると、各地で古く美しい町並みが残されている。

これに対し、日本の都市では、頻繁な建て替えにより、伝統的な建築物が減少しつつあり、とりわけ東京は、震災などもあり、景観面での魅力に欠けると指摘される。しかし、日本には、物にとらわれない伝統に根ざした素晴らしい技術や文化が多くある。

どの民族にも、自然環境に適した暮らし方がある。エスキモーは、氷で家を作る。モンゴル人は、パオで移動しながら暮らす。日本人は、豊かな森があり、木と土と紙で家を作った。日本家屋は、高温多湿の気候でも暮らしやすくできている。しかし、日本の木造建築は、燃えやすく、災害にも弱いので、建物自体の保存は難しい。

伊勢神宮では、1,300年も前から、20年ごとに神社の正殿を建て替え、式年遷宮を行うので、建物自体は新しい。しかし、この釘を使わない建築様式は素晴らしいものである。宮大工などの技術は、20年毎に、建て替えるからこそ、連綿と継承されてきたのである。

日本文化の本質は、物を作る技術にある。

欧米では、フルコースの料理

を食べるのに、何本ものナイフとフォークを使う。しかし、日本人は、箸だけで何でも食べられる。欧米では、台所、食堂、居間、寝室は、別の部屋である。日本では、一つの部屋で、ちゃぶ台をおいて食堂とし、ふとんを敷いて寝室とする。日本では、狭い空間を有効に活用する様々な暮らしの知恵が生まれた。江戸しぐさという言葉があるが、都市生活

で相手を尊重し思いやる心に満ちた、生活思想の数々である。

世界的に見ると、地球温暖化や石油の枯渇など、大量消費型の社会から、省資源・省エネルギー型社会への転換が求められている。江戸・東京を通じて、人口密度の高い暮らしから生まれた日本文化は、世界にアピールできる価値があると思う。

伝統文化は、現代にも継承されている。例えば、浮世絵は、ヨーロッパに衝撃的な影響を与えたといわれ、高い木版画の技術があった。浮世絵は、葛飾北斎など、絵師だけの力によるのではない。和紙職人、彫師、摺師など、多くの職人の技術があって生まれたものである。木版画で製作された黄表紙などの本は、絵が多く、今日の漫画へと受け継がれている。近代的なフィギュアも、伝統的な人形づくりの技術を継承している。

そして、「ひらがな」やカタカナなどの文字は、東アジアでは最も早く生まれた表音文字であり、日本の誇るべき文化である。この文字という日本文化を伝える日本語ボランティアの方には、日本文化を良く知り、自分たちの文化に誇りを持って欲しいと思っている。



千代田区有形指定文化財の「神田の家」